平成２６年度１月　定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時　平成２７年１月８日（木）午後０時４５分～１時１５分
場所　市役所２階第４委員会室
出席　市政記者クラブ１０社

会見内容
１．はじめに
■　新年を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

■　昨年の１月の記者懇談会では、「今年は男女ともに様々な分野での活躍を期待するとともに、「次代へつなぐ」ということで、子どもたちの活躍も期待しております。」というお話をさせていただきましたが、昨年は、まさにその言葉のとおり、若い世代の活躍が見られた一年でした。

■　まず、皆さんの記憶にもまだ残っていると思いますが、武修館高等学校が同校野球部の創部以来初の、そして市内の高校として実に３５年ぶりとなる甲子園出場を果たしました。

■　また、８月には、全日本中学校陸上競技選手権大会の女子１００メートルハードルにおいて、景雲中学校３年生の村岡選手が見事に優勝を飾り、その快挙に続くように景雲中学校陸上部の皆さんは全道中学校駅伝大会で初優勝するなど、１年を通して、スポーツ界での若い皆さんの活躍も目立った年でございました。

■　５日から明日まで、釧路市で開催されています、日本学生氷上競技選手権大会（インカレ）にも多くの釧路市出身の選手の方が出場しておりますので、ぜひ多くの皆さんに足を運んで応援していただきたいと思います。また、景雲中学校陸上部３年生の金橋選手は、１８日に広島県で開催される全国都道府県対抗男子駅伝競走大会に北海道代表として出場しますので、こちらはテレビの前で応援していただければ、と思っております。

■　一方、市としましては、こうした若い世代が誇りを持って住み続けられるまちづくりを進めていくことが重要であると認識しております。本市においては、残念ながら人口減少が続いており、昨年には人口が１８万人を下回ったという状況の中で、平成２７年度の予算編成にあたりましては【人口減少社会に立ち向かうまちづくりの推進】を方針として打ち出し、人口減少社会にあっても、釧路市が持続的に発展していけるよう、この課題にしっかりと向き合い、取り組んでいくこととしているところでございます。

■　昨日から市長ヒアリングも始まっており、本年も釧路市の優れた自然環境や食などの地域資源を有効に活かし、市民の皆様と知恵と力を結集し、また、課題を先送りすることなく、一つひとつ着実に克服しながら、引き続き、魅力あるまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

２．話題提供（４項目）

１．市職員の町内会加入状況調査結果について

■　昨年１１月に行った「市職員の町内会加入率」の数値がまとまりましたので公表します。

■　全職員を対象に調査を行いましたが、加入率は、７７．６２％となり、平成２６年２月の７３．７８％から３．８４ポイントの増加となりました。

■　町内会活動は市政推進の原動力であり、これまでも研修等を通じ職員の積極的な参加をお願いしてきました。

　来年度は連合町内会の５０周年ということもあり、今年度、釧路市連合町内会と「連携基本協定」を締結し、全市を挙げて町内会加入促進の取り組みを行ってきたところであります。加入率が上がったとはいえ、いまだに２割以上の職員が未加入であるという状況に対しましては、問題意識を持っているところでございます。

■　引き続き、市役所内部に必要性や考え方などを話しながら、町内会の加入率アップに向けて取り組んでいきます。

２．海外観光客誘致に係る網走市との連携について

■　釧路市への海外からの観光客誘致を図るために、釧路市ばかりでなく広域的な観光資源を活用し、誘客を一層進めることとしました。

■　昨年には、網走市と連携し、流氷などの観光資源をメインとしながら、女満別空港及び釧路空港の利用をはじめ、ＪＲ釧網線や都市間バスなどを利用した２次交通などによる広域移動の取り組みを行うこととしました。

■　まず、昨年１１月１４日から１６日の３日間で、タイ国バンコク市内において開催された、個人客向けのフェアに出展し、ウインターシーズンにおける観光客誘致のＰＲを行ってきました。

　現地では、当市を含めた「ひがし北海道」地域の情報を真剣に収集する来場者の方が多くいらっしゃいました。今後、タイ国からの観光客の増加に期待するものであります。

■　今後の予定ですが、１月下旬には、ひがし北海道観光開発事業協議会（東観協）主催の「ビジットジャパン地方連携事業」により「タイ・マレーシア・シンガポール」のエージェントを招へいし、また、北海道観光振興機構主催の「マレーシアメディア」招聘事業に係る意見交換会、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏事業による「台湾メディア」の招聘事業（市と日台親善協会共催）を行います。

■　また、３月には、東観協主催による「台湾エージェント」招へい事業が予定されています。

■　今後、網走市をはじめとした、「ひがし北海道」地域における流氷やタンチョウ、マリモなどの観光資源を活用しながら、網走地域と連携しながら、広域的な視点で当市の観光ＰＲに努めてまいりたいと思っています。

３．第３７回阿寒湖氷上フェスティバルＩＣＥ・愛す・阿寒「冬華火」の開催について

■　「第３７回阿寒湖氷上フェスティバル」が、今年は１月３１日（土）から３月１５日(日)までの４４日間、ＮＰＯ法人 阿寒観光協会まちづくり推進機構と釧路市の主催により毎晩開催されます。

■　氷上フェスティバルは、アイヌ舞踊を盛り込んだセレモニーと阿寒湖の氷上から打ち上げる「冬華美」をメインに、氷切り体験、氷上ゲーム、様々な雪像、すべり台など、観光客の皆様に 冬の楽しみと体験を存分に味わっていただくフェスティバルです。

■　フェスティバルには全国、海外からのお客様がシーズンで５～６万人が訪れ、２月には沖縄から今回で３２回目となる琉球放送と沖縄ツーリストによります「白い北海道」ツアーの最終日を阿寒湖温泉に３００名を超える皆さんをお迎えし、「沖縄デー」と称してラジオの生放送が沖縄に向けてあり、私も出演することになっています。
　海外からは台湾、香港など東南アジアからのお客様も多数訪れ、冬の北海道を体験するメニューとして 好評をいただいています。

■　今年も「阿寒湖氷上フェスティバル」の目玉として、個性的な空間を楽しんでいただくため、湖上に直径１５ｍと１０ｍの氷で出来た「アイスドーム」を建設し、皆様をお迎えします。

■　この「アイスドーム」は、阿寒湖のマリモをイメージして、グリーンのＬＥＤ照明で、暗い湖上に浮かびあがるように建設され、ドームの中では、ちょっとした休憩所として、あつあつ牛乳やあつあつの甘酒、あつあつのわかさぎの天ぷらなどの「お楽しみセット」（１セット３００円）も賞味できます。

■　現在、ドーム内で実施する、いろいろなイベントを企画中と聞いておりますので、どうぞ楽しみに待っていただきたいと思います。

■　また、「あいすランド阿寒」は 阿寒湖の氷上で ワカサギ釣りをはじめ、スノーモービル、バナナボート、スケートが楽しめる体験フィールドとして１月から３月下旬まで開設され、阿寒湖の冬の名物として 観光客の皆様に親しまれております。

■　阿寒湖の自然、氷上での体験を充分堪能され、フェスティバルともどもお楽しみいただきたいと思います。

４．くしろ冬まつり２０１５の開催について

■　昭和３９年に１回目の氷まつりが開催され、平成２３年度からは名称を「くしろ氷まつり」から「くしろ冬まつり」に変更し、釧路を代表する冬のイベントとして開催しています。本年は２月７日(土)と８日(日)の２日間を会期として開催することとなりました。

■　ここ数年の暖冬による雪の確保の困難さや、滑り台の安全面なども考慮し、天候に左右されないイベントへの転換を進めているところでありますが、市民や観光客の皆さまが お子さんと一緒になって 雪や氷に触れていただく貴重な場として、皆さまに冬の釧路を楽しんでいただけるような、イベント満載の２日間にしていきたいと考えています。

■　会場につきましては、観光国際交流センター前庭をメイン会場とし、連動した形で、ＭＯＯのエプロンでは「氷の迷路」などを開催、観光国際交流センター内でも協賛イベントの開催を予定しています。

■　今年の主な内容でありますが、２月７日（土）に「氷雪像引渡し式」や北海道新聞社主催の「花火大会」、ビンゴ大会、８日(日)には釧路新聞社主催の「宝くじ付きもちまき大会」などを予定しています。また、新規企画として観光国際交流センター内に「縁日コーナー」を設置し、２日間天候に左右されずに楽しめる取り組みも考えています。

■　子どもたちに大人気の氷雪像やチューブスライダーは、今年も陸上自衛隊第27普通科連隊を始め８団体の皆さんが制作するとともに、観光国際交流センター内では、「釧路地場工業展示会メイド・イン・くしろ」、「くしろ消費者まつり」、「フリーマーケット」などが行われる予定となっておりますので、多くの方々の参加を期待しています。

３．質疑要旨

（質問）

・　町内会加入のアンケートですが、なぜ入らないのかという理由を聞く設問があるのか、単に入っている、入っていないを聞くものなのか、教えてください。

（市長）

・　単に加入状況を聞いています。町内会加入については、強制することはできない仕組みになっています。戦時に町内会が利用されたという歴史があり、加入については任意という整理になりました。そのため、なぜ入らないのか、と聞くこともできない状況です。

（質問）

・　災害時のことを思うと公助、自助もありますが、共助が大変重要であるということを考えると組織率は高い方がいいと思います。強制できないのでは、致し方ないのでしょうか。

（市長）

・　現在、制定に向けて取り組んでいる「釧路市まちづくり基本条例」の中でもコミュニティの重要性を盛り込んでいます。北九州市では、加入率が９０パーセントを切ったときに危機感を持って、同様に吸収し自治基本条例により、コミュニティの重要性を謳っています。

　連合町内会との連携基本協定に基づき、町内会と連携し、さまざまな事業を進めていく中で、いい方向に動き出すことを期待しています。職員には、公務員という公の職に就いているので、町内会という公の団体との連携について考えていただきたい、と伝えていきます。

（質問）

・　他都市との連携は網走市とだけなのでしょうか。

（市長）

・　まずは、網走市と連携をしていきますが、北海道全体を見ても東側の観光については、層が薄いと感じています。クルーズ船の入港時も網走、帯広へ行くツアーへの参加者も多く、帯広市など、網走市以外の自治体とも「ひがし北海道」をキーワードにさまざまな事業を進めていきたいと考えています。

（質問）

・　メディア招へい事業は、東観協が主催なのでしょうか。

（観光振興室長補佐）

・　東観協が主催です。
　網走だけではなく、地域全体の魅力を伝えたいと思っています。

（市長）

・　高速道路もできますし、エリアの中でのツアーもしっかり連携していきたいと考えています。
　隣の生活圏である、十勝圏、オホーツク圏との連携についても視野に入れて、広くひがし北海道の魅力を伝えていきます。